

2 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けに取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

※ 「1 自己評価及び外部評価結果」を評価機関から受領した時点で、3「サービス評価の実施と活用状況(振り返り)」と併せて作成します。

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	6	「身体拘束」の研修はあすなるの会の内部研修で行われているが、川樋グループホームに現在入所している利用者に対してのケアが「身体拘束」に当てはまるのか？といった具体的な落とし込みをしていなかった。	現在の介護が「身体拘束」になってしまっていないか、カンファレンスで話し合いし改善を図る。やむ負えない場合は必ず本人と家族に同意をとる。	・入所者9人の生活パターンを把握する ・黙って介助せず、必ず本人と話しし同意を得てからケアをする。 ・現在の介護が「身体拘束」になっていないか把握し共有するためカンファレンスで話し合う。 ・気が付かない「身体拘束」についての研修を行なう。	12ヶ月
2	35	災害対策として、施設の防火担当者を中心として避難訓練演習はしていたが、具体的なマニュアルはなくいつも同じ演習で終わっていた。	様々な災害を予想・想定した避難訓練の「マニュアル」を作り、実践する。	・運営推進会議委員、消防署、地区の消防団、地区の人にも参加して頂き、避難訓練を实地する。 ・施設が土砂崩れの危険区域に入っているため、県の河川砂防課と共に土砂崩れの勉強会と避難訓練を実施予定。	12ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。なお、挿入した際は、印字状態を必ず確認して下さい。